

コミュニケーション支援 の利点を探る

はじめに

2023年から2024年にかけて、リサーチ会社Augurlは、健康経済学者ジョン・モシュタギ＝スヴェンソン氏と共同で、スウェーデンにおける拡大代替コミュニケーション（AAC）の利用に関する経済効果と社会的価値に関する研究を実施しました。この研究「拡大代替コミュニケーションの利点を探る」はDynavox Group ABの依頼により行われたものです。以下は、この研究の概要および主な知見をまとめたものです。

詳細な調査方法および結果をご覧になりたい方は、完全版の研究レポートをご参照ください：

assistivecommunication.com/sweden-study

概要

本独立調査は、ハイテクAAC（拡大代替コミュニケーション）機器が、さまざまなAAC利用者、介護者、そして社会全体にもたらす利点を評価することを目的として実施されました。

この調査は、質的インタビュー、量的調査（オンライン調査）、および健康経済モデル（調査およびオープンソースデータを含む）を組み合わせて行われています。すべての利用者層を対象としつつ、特に脳性まひ（CP）、自閉症、ALS/MNDに重点を置いています。

目的

この調査の目的は、コミュニケーション支援が障害のある利用者、その周囲の人々、そして社会全体にもたらす価値を明らかにすることです。以下のような問いに答えることを目指しました：

- ・ ハイテクAAC機器は、どのように、そしてどの程度、利用者の生活を改善できるのか？
- ・ これらの機器は、家族や介護者など利用者の周囲の人々の生活にどのような影響を与えるのか？
- ・ コミュニケーション支援の活用は、経済効果と社会的価値を生むのか？

全体的な主な調査結果

この調査は、コミュニケーション支援が測定可能なリターンと明確な経済的利益をもたらす「投資」であることを示しています。また、障害のある人々に対するハイテクコミュニケーション支援のソリューションへの投資は、以下のような成果をもたらすことが分かりました：

2x

利用者の生活の質 (QOL) を2
倍に向上させる

生活の質の倍増

本調査によると、ハイテクAACを使用することで、利用者の生活の質は未使用時の約2倍に向上します。主な利点としては以下が挙げられます：

- ・ 自分のニーズや好み、個性を表現できるようになる
- ・ コミュニケーションへの意欲が高まる
- ・ 人間関係を築き、維持することが容易になる

3x

投資額の3倍に相当する
リターンを生む

社会的コストの削減

この調査では、1人のハイテクAAC利用者に対する機器投資額の3倍に相当する社会的コスト削減が、5年間で見込まれると推定しています。

この費用対効果は、利用者本人だけでなく、家族や介護者にとっても医療ニーズの減少や就労可能性の向上によって実現されます。

参加者ごとの詳細な調査結果（抜粋）

利用者全体における主な利点

- ・ 86%が「自分の意思、ニーズ、好みを表現できる」と感じている
- ・ 72%が「コミュニケーションへの意欲が高まった」と回答
- ・ 69%が「身近な人以外ともコミュニケーションができる」と感じている

介護者全体における主な利点

- ・ 88%が「利用者とのコミュニケーションにおける“推測”が減った」と回答
- ・ 83%が「利用者のニーズをよりよく理解し、対応できるようになった」
- ・ 65%が「利用者介護者の両方の自立性が向上した」と述べている

疾患ごとに分類された詳細な調査結果

脳性まひにおける主な利用者・介護者の利点

- ・ 86%の利用者が「新しいスキルを学び、成長できる」と回答
- ・ 79%の利用者が「自分の意思、ニーズ、好みを表現できる」と感じている
- ・ 67%の介護者が「生活上のストレスが軽減された」と回答

自閉症における主な利用者・介護者の利点

- ・ 89%の介護者が「コミュニケーションの“推測”が減った」と報告
- ・ 79%の利用者が「自分の意思、ニーズ、好みを表現できる」と感じている
- ・ 78%の介護者が「利用者のニーズをよりよく理解し、対応できるようになった」
- ・ 67%の保護者が「自閉症の子どもをより深く理解できるようになった」と感じている

ALS/MNDにおける主な利用者・介護者の利点

- ・ 96%のALS当事者が以下のように感じています：
 - ・ 自分の意思・ニーズ・好みを表現できる
 - ・ 自身の健康状態や医療的ニーズをより明確に伝えられる
 - ・ 基本的なニーズを超えて、自分らしさや個性を表現できる
 - ・ 現代のデジタルツールを使ってコミュニケーションができる
- ・ 88%の介護者が「利用者と介護者の両方の自立性が向上した」と回答しています
- ・ 82%のALS利用者が「身近な介護環境の外にいる人々とも社会的なつながりを築けるようになった」と感じています

社会全体における利点

ハイテクAACは、スウェーデン社会に対して、ハイテクAAC機器1台あたりの投資額の3倍に相当する32万スウェーデンクローナ（SEK）もの価値をもたらす可能性があり、その主な要因は以下の通りです：

- ・ 介護者の就労可能性の向上
- ・ 特に言語療法など医療費の削減
- ・ 入院・外来受診の減少

課題

多くの利用者および介護者は、ハイテクAACの使用においていくつかの課題があると報告しています。代表的な課題は以下のとおりです：

- ・ すべての環境で使用するのが難しく、根気が求められる
- ・ 身体的に負担が大きく、時間がかかる
- ・ 充電や機器のメンテナンスで介護者への依存が必要
- ・ ツールの重要性や使い方を周囲に理解させる必要があり、介護者に追加の負担がかかる



ハイテクAAC利用者およびその周囲の人々に関するすべての調査結果を詳しく読みたい方は、
assistivecommunication.com/sweden-study からダウンロードする

この調査はDynavox Group AB社の依頼により実施されました。